



浅野さち 通信



公明党

市民相談は浅野さちまで！ 090 (1763) 7785

発行者：市川市鬼高1-14-3 浅野さち 令和7年 10月発行



令和7年9月議会報告 いのちと健康を守る

いつも大変お世話になっております。浅野さちでございます。

今年の夏はかつてない猛暑となり、また残暑も長引きこれからの時期はお身体に十分お気付けて頂きたいと思えます。良質な睡眠、バランス良い食事そして適度な運動が大事ですね!!
今回は、6月と9月定例議会で質問しました内容をご報告致します。



ゴールドシニア外出支援事業の拡充を要望！



75歳以上の方が申請によってバスチケット・タクシーチケットを配布されています。利用者のニーズは、バスが運行していない地域、また年齢が高くなるにつれてタクシー利用が多いことから、バスかタクシーのいずれか選択ができ枚数を増やしてほしいとの声です。健康寿命の延伸の観点から、外出促進につながるよう配布枚数の拡充を要望しました。

骨粗しょう症検診」導入を強く要望！

国は、40歳から70歳までの女性を対象に5歳刻みで年1回実施し、問診や骨量測定などに努めること、また、検診を導入し受診率を15%目指すこととなっております。

自覚症状がなく進行する骨粗しょう症を、早期に発見し骨折予防する上で非常に重要です。現在は医師会との協議を経て「骨粗しょう症検診」導入に向け協議・検討しています。



©KOMETTO

「脳ドック費用助成」導入を強く要望！



©KOMETTO

費用助成によって、脳ドックを受診するきっかけとなり脳疾患の早期発見や重症化予防につながります。県内では多くの自治体が導入しており、助成金額は1万円から1万5千円が多く、対象は40歳以上5歳ごとや、1年から3年に1回のところと様々です。今後、現在行っている人間ドック費用助成に脳ドック費用助成をセットで考え選択方式にするなど、様々な条件を鑑み「脳ドック費用助成」の導入を強く要望しました。

「小1の壁」による朝の預かり事業について



「小1の壁」は保育所に比べて預けられる時間が短くなることで生じる問題です。

国から小学生の朝の居場所づくりについて実態調査の通知が出されました。

本市は、学校への調査結果等から、朝の居場所が必要な児童は少数であると認識しているようですが、今後、家庭の様々な実態や保護者のニーズを的確に把握することが重要です。教育部とこども部が連携し、実態調査をするように要望しました。

併せて本市に適した朝の預かり事業になるように、先進自治体や国の動向を踏まえ効果等を調査研究します

多胎児（ふたご・三つ子）支援について

1 子育て支援訪問支援事業の拡充！

産前、産後のご家庭の家事、育児支援を行う事業です。現在、多胎児の場合妊娠中から生後1年間となっていますが、例えば早産で入院期間が長くなり、利用できる期間が短くなってしまふケースがあります。そのことから多胎児の場合は生後2年間として期間の延長と、合わせてご家族が希望すれば、派遣する支援員2名体制にできるように強く要望しました。



2 産後プランニングの作成を推進！

妊娠中にどのような産後の生活をおくりたいか、産後の過ごし方やサポート体制について多胎児育児を具体的にイメージできるように訪問し、ご夫婦と共にプランニングを立てることです。

今年度から拡充され妊娠期から「いちふぁみヘルプ」で専門的支援を受けられるため、産後ドゥーラさんをはじめ支援員さんが「産後プランニング」を作成できるように今後検討していきます。

その際は「ふたご手帳」を活用し推進します。

3 養育支援の活用について

児童虐待の防止や養育環境の改善のため、支援が必要と判断されたご家庭に家事・育児支援を行います。養育負担が大きい多胎児世帯に養育支援が活用できないか伺います。

活用にあたって客観的基準は「リスクアセスメントシート」で27項目の虐待リスクを図るもの、養育者や家庭の状況を確認しケース検討会議などで支援の必要性を決定します。

核家族で周囲に支援する方がいない場合、多胎児家庭のご両親の疲労が重なり判断能力が落ち、発作的な行動を起こすことに懸念します。母親に寄り添い切れ目ない支援をお願いします。

